
「My Song」

ささきはるか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「My Song」

【コード】

N2824L

【作者名】

さつきはるか

【あらすじ】

深夜アニメのあつけないラスト。深夜に鳴らす、不協和音。

(前書き)

「Angel Beats!」第3話のネタばれの可能性がありません。

作者は意図してませんが、キャラクターに対し冒涔しているように感じる話かもしれません。

「Angel Beats!」ファンの方、未視聴の方、読むことをお勧めしません。

2次創作、というより、できそこないの感想文のようなものなので、その点をお含みおきください。

ぼんやり見ていたアニメ。
とりあえず学校の舞台。赤髪の女の子が歌ってる。アコギ。
全校放送されてるじゃん、影響がどうのここの…ってあれ？
消えちゃった。

「あはは」

なんだか、アタシは笑ってしまった。
本当は、今、この画面の前で、たくさんの人が泣いてるんだろう。
画面の中でも泣いてる人がいる。
でも、アタシは笑ってしまった。
何にも、絶対なんてないのに。
無の存在は、有がいるからあるのに。

日常はライブなのに。
どうしてわざわざ音源を聞かないと音を音楽と認識できないんだろ
う？
言葉は有限なのに。
どうして売られている言葉を自分の言葉と簡単に置換できるんだろ
う？

「ばかみたい」

あ、そうか。
わかったから、消えちゃったんだ。
なんだかよくわからない世界に、自身の認識を認めちゃったんだ。

「ばかみたい。ばかみたい。」

部屋の隅。

すっかりチューニングの狂ったアコギ、乱暴に引っ張り出して。

びいいん

不協和音。当たり前。親指痛い。

E - A - D - G - H - E

びーん。

それでも、弾きたい自分がいて、書きたいアタシがいて、ほんとに、ばかみたい。

何で音楽なんて、好きになっただらう。

ばかみたい。

(後書き)

「Angel Beats!」というアニメがありまして、第3話でちよつと大きな物語の転機があります。

僕自身、この「音楽に対するもやもや」とか「有を生むこと」「って言うのはいつかきちんと書きたいのですが、その切れ端のようなもの。今、どうしても書きとめておきたかったこと。

おそらくアニメ本編が終わるころにはまたイメージやなにやかやが変わってしまつてると思うので。

あ、ケータイ小説、割と意識しました。

表記はしやすかったです、書きにくかったです。

僕の代弁者、ささきはるか。

ありがとう、愛してる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2824/>

「My Song」

2010年10月28日03時56分発行